

## 新生児・未熟児医療における病院と保健所の連携について

(分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅ケアシステムに関する研究)

研究協力者 松田博雄

**要約：**NICU（新生児集中治療室）を退院する児および家族は医学的問題のみならず社会的、経済的問題を抱えていることが多い。これらの問題を医療機関のみで継続的に援助することは困難と考え、全国的な母子保健の実施機関である保健所との連携を図るために保健所連絡票を作成し、両親の承諾を得て保健所に送付している。

保健所連絡票は有用ではあるが、医療上の問題より養育上および継続した問題点を重視した我々の意図は十分には保健所に理解されていなかった。退院した家族も地域での保健婦の訪問を歓迎しており、訪問率が64%であったことを考えると、もっと積極的な訪問が期待される。

新生児・未熟児医療の知識の保健婦に対する啓蒙と、より一層の保健所とNICUとの緊密な連携が望まれる。

**見出し語：**NICU、保健所、訪問指導

**研究目的および方法：**前年度に報告した保健所連絡票について、送付した保健所にアンケート調査を施行した。NICU退院児の家族に対して保健婦の訪問について調査した。

**結果：**I 保健所に対するアンケート調査

27保健所から回答を得た。連絡票は訪問指導に85%が役だっていると回答した。訪問の時期は退院後1週間以内10%、1-2週間33%、2-3週間28%と1-3週間の間で61%であった。連絡票は児の退院後2週間までに67%が届いていた。89%の保健所が退院後2週間以内に届く

ことが望ましいと回答した。

保健所連絡票の記載内容について、入院中の児の治療経過についての記載は65%が適切、6%が不適切と回答している。今後の生活と発達における問題点については50%が適切、25%が不適切と答えていた。児の家庭における養育上の問題点については55%が良い、20%が悪いと回答していた。家族の児の受け止めかたについての記載は50%が十分、25%が不十分としていた。

地域の医療機関や療育機関などの処遇についての記載は61%が可、6%が不可であった。返

信用の家庭訪問記録については70%が必要と回答しているが、返信欄は書きやすいかとの設問には46%が否と答え、可としたのは36%にすぎなかった。否と回答したところからは、回答欄が大きく漠然としていて書きづらいとするところが多かった。

連絡票が送付されるようになってから、a.退院したことを把握することができた。b.NICUの状況を知ることができ、病院との連絡がとりやすくなった。c.母親からなかった把握できないような情報を得ることができ、適切な指導ができるようになったというような肯定的な意見が得られた。

II 当院 NICU 退院患者に対するアンケート  
203 家族中 134 通の回答が得られた。

1. 保健婦の訪問を64%の家族が受けており、退院後1ヶ月以内に71%が行われていた。また家族側も88%が訪問時期は適切であったと回答した。保健婦の訪問は84%が良かったと回答し、病院の医師、看護婦以外の地域の保健婦に見てもらうことができ、面識もでき、リラ

ックスした気分で話ができ、励ましてもらえ、ささいなことでも相談ができ不安が減ったというような意見があげられていた。

「NICUでの指導と保健婦の指導で食い違うことはありませんでしたか」との質問には、90%はなかったと回答し、あったと回答したのは7名、5%であり、授乳間隔、授乳のしかた、離乳食についてであった。

考 察：保健所に対する保健所連絡票については保健所ではおおむね好評であったが記載内容については私たちが意図分に理解されていないものと考えられた。また保健婦の訪問はより積極的に行うことが望まれる。

NICUと地域保健婦の指導に大きな問題が少なかったのは、訪問が比較的乳児期早期に限られていたためと考えられる。保健婦に対する新生児、未熟児医療の啓蒙は極めて大切な問題と考えられ、保健婦を対象にした講習会や、NICUと地域の保健婦とが交流をもつ会など通してより一層の発展が期待される。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約: NICU(新生児集中治療室)を退院する児および家族は医学的問題のみならず社会的、経済的問題を抱えていることが多い。これらの問題を医療機関のみで継続的に援助することは困難と考え、全国的な母子保健の実施機関である保健所との連携を図るために保健所連絡票を作成し、両親の承諾を得て保健所に送付している。

保健所連絡票は有用ではあるが、医療上の問題より養育上および継続した問題点を重視した我々の意図は十分には保健所に理解されていなかった。退院した家族も地域での保健婦の訪問を歓迎しており、訪問率が64%であったことを考えると、もっと積極的な訪問が期待される。

新生児・未熟児医療の知識の保健婦に対する啓蒙と、より一層の保健所とNICUとの緊密な連携が望まれる。